

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①授業のユニバーサルデザイン化など学習への意欲付けを積極的に行う。 ②学習過程を明確にし、話し合いの場面を大事にして、聞く・伝える力を高める。	授業のユニバーサルデザイン化として学習計画の掲示、具体物の提示、書画カメラの活用などを行い学習への意欲付けに努めた。学びあい活動(交流)をいろいろな場面で取り入れ、学習方法を工夫した。児童が聞いたことを理解し、自分の言葉で相手に伝える力を育てたい。	B
豊かな心	①教育活動全体を通して行う道徳教育と道徳の時間の総合化を図り、意図的、計画的な指導をする。 ②あいさつ運動、たてわり活動、ペア・ブロック交流、特別支援学校との交流などの際、事前指導や振り返りをていねいに行い、人とかかわり方を意識させる。	児童が道徳の時間に学習したことを日常生活につなげていくよう指導に努めた。道徳の時間の確保や展開の仕方の共通理解が不十分だった。特別支援学校との交流は十分にできなかった。あいさつ運動は、たてわりで取り組んだが、事前指導やふりかえりなどの点で指導のしかたに課題があった。	B
健やかな体	①運動に取り組みややすくなる教具や場を設置するなど、運動の日常化に向けて環境づくりを図る。 ②生活リズムチェックカードでの実態調査を継続し、家庭と協力して、基本的な生活習慣を確立させていく。	学校行事や運動委員会の取り組みで様々な活動を行ったが、日常的・継続的な活動に広がらず、外遊びをする児童が限られている。 生活リズムチェックカードの実態調査を3年継続したことで取り組みが習慣化されてきた。カードを学級指導で活用することや、家庭と連携した取り組みにする点で課題があった。	B
児童指導	①学習や生活のスタンダードを作成し成果と課題をつかむ。 ②清掃活動にすすんで取り組めるよう支援をしたり、キャンペーンを行ったりする。	今年度の取り組み目標である学校スタンダードの作成に着手できたことはよかった。今後はどのように職員間で共有し共通した指導につなげるかが課題である。 ごみの分別や清掃キャンペーンなど、多くの取り組みを行った。どの学級でも児童が意欲的に清掃活動に取り組んでい	A
特別支援教育	①適切な時期に関係者によるケース会議を開き、全職員で情報共有し、その子にあった対応をとっていく。 ②充実したサポート学習ができるように環境整備をしていく。	状況に合わせてケース会議を開く、全職員で共通理解するなど、昨年に引き続き成果があった。 サポート学習は、利用する児童の数が増え、児童の保護者と連携して取り組んでいる。今後はさらにサポート学習の場所・人材の確保を行いさらなる充実に努めたい。	B
保護者・地域連携	①地域人材活用計画を含めて生活・総合の力を整理していく。 ②地域・PTAと連携協力して伝統の凧づくり凧あげ大会の運営を改善する。	生活科では、様々な実践を行い、教育課程の整理を行った。総合的な学習の時間は、各学年での実践を行ったが教育課程の整理まで手が届かなかった。 凧づくり凧あげ大会は、地域やPTAと連携し、事前話し合いを重ねることで、運営を改善することができた。	B
人材育成・組織運営	①時期、状況に応じた内容の研修を行う。夏季休業期間には、個人情報取扱い、特別支援教育、人権教育等の校内研修を行う ②すすんでコミュニケーションをとる。学年研とブロック研の時間を確保するとともに、学校グループウェア「ミライム」を活用して、迅速、的確な情報共有を図る。	有意義な研修を行い指導に役立てることができたが、時期が集中したり他の研修と重なったりすることがあり精選が必要だった。 職員間でコミュニケーションを図ることは出来たが、日々の問題行動への対応などが中心で後手にまわることがあった。行事計画や学習計画について学年で深く話す時間があまりなかった。	B
ブロック内相互評価後の気付き	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校との交流が他者理解を深め、よい学びにつながっている。今後も大事にしていく。 生活リズムチェックカードのように、生活習慣形成にかかわる内容について家庭に啓発する取組が、大正中ブロック内では大切である。 子どもに指示を出すときには、教師からのおしつけにならないようにする。言動の価値づけをし、伝えるといい。 スタンダード作成は、職員間で共通に取り組めるという内容になるように、あせらずていねいにつくっていく。 		
学校関係者評価	<p>学校で「靴をそろえる」「あいさつをする」などの取り組みを行うことにより、地域でも、できるようになった児童の姿が見られたと評価していただいた。ただ、それを継続していくのは難しかったり、すぐに結果がでなかったりすることもあるが、これからも、学校と地域が連携し、根気よく指導していくことが大切なのではないかとお話しいただいた。</p>		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>授業のユニバーサルデザイン化については、その重要性を認識している。さらに多くの授業場面で生かせるようにすすめた。国語を中心にして、聞く、伝える学習を大事に扱ってきた。また、地域の材を生かした学習も積極的に各学年で取り入れてきたが、子どもの表現力、理解力が高まってきたという実感は残念ながらまだ感じられない。</p> <p>楽しく安心して過ごせる学校生活の基盤はやはり学級経営であると再確認した。キャリアの浅い教職員が多い今、授業力や生活指導力・児童理解力の向上に向けて、伝達し、全体で情報共有していく時間をつくっていくことが重要である。一部作成できたスタンダードを今後生かしていきたい。</p> <p>望ましい生活習慣の形成に向けて、家庭への啓発は十分行っている。引き続き、意識を高められる活動を工夫したい。</p>		